

国際政治

55

国際紛争の研究

日本国際政治学会編

中東紛争 ——十月戦争とイスラエルの対応——	丸山直起
戦争拡大の確率モデル ——国際紛争の数理モデルの一例——	山本吉宣
紛争の概念化に関する一考察 ——バリンジャー・モデルの可能性について——	志鳥学修
対外直接投資と紛争 ——理論的考察——	大隈宏
国際危機における軍事と政治	近藤三千男
国際統合と平和の力学 ——欧州共同体の行動軌跡——	鴨武彦

< 報告要旨 >

個人・都市・政府および世界政治	チャドウィック・F・アルジャー
米国外交政策における決定要因の分析	ブルース・M・ラセット

< 書評 >

ヒュー・トーマス著 『ヨーロッパ——その根底的挑戦』	金丸輝雄
浦野起央編著 『中東国際関係資料集』	丸山直起
グレアム・T・アリソン著 『決定の本質——キューバ・ミサイル危機をめぐって』、モートン・H・ハルペリン著 『官僚政治と対外政策』	井上真蔵
I・M・デストラー著 『大統領、官僚、対外政策——組織改革の政治』	野林健
F・S・ノーセッジ編 『国際関係における武力行使』	吉川洋子
マイケル・ハース著 『国際紛争』	黒川修司
ハーバート・パーメット著 『アイゼンハワーとアメリカ十字軍』	根小田渡

1976年刊No. 1